

# かしわ もり 柏葉の杜



学校だより NO. 27  
令和元年12月25日  
八頭町立八東小学校  
電話71-0108 FAX71-0107

○令和元年もあと数日。8ヶ月間の短い「令和元年」も幕を閉じます。  
～ 2学期が今日、無事に終了しました。来る子年も良い年でありますように。

5月1日にスタートした「令和元年」。早いもので、あと数日で終わります。8ヶ月間の「令和元年」が幕を閉じます。「今年の漢字」も予想通り、「令」でした。因みに、流行語大賞も私の予想通り「ONE TEAM」でした。どちらも思えば、実に、妥当な結果でした。

そして、80日間の2学期も本日、終業式を迎え無事に終了しました。この2学期を振り返ったとき、各地に大きな被害を及ぼした台風の惨禍がありましたが、山陰の地には大きな被害がありませんでした。しかし、こうした気候変動が、ここ山陰を、鳥取県を、そして、八頭町を襲わないとは決して言えません。ですから、普段からの備えを改めて考え、準備していくことが大切です。それを痛感した2学期でした。

さて、8月29日に始まった第2学期。夏休み明け作品展にはたくさんの保護者・地域のみなさんに来校頂きました。校舎の廊下全部を埋め尽くすようなたくさんの自由研究には、今年も感動しました。課題を見つけ、課題を追究し、それをまとめる学び。この学びはこれから先の時代に大切な学び体験です。

9月から10月にかけては今年もすばらしい成績を残してくれた郡・県の陸上大会がありました。子供たちは朝からリレー練習にも取り組みました。放課後も短い時間ではありましたが、全職員で5・6年の子供たちの練習を支援し、その中で、子供たちと教員の一体感も生まれました。このすばらしい練習環境のもとで「リレーの八東小」の伝統の継続を次年度も期待します。

また、秋には、各学年が天候に恵まれて、4年の氷ノ山での宿泊学習、5年の県西部への社会見学、そして、6年の京阪神への修学旅行も無事に実施できました（修学旅行は台風の影響を心配しました）。更には、1年から3年も、学校周辺を探検したり、八東地域を離れて町内での学習を重ねました。そうした中で地域のみなさんとたくさん交流できました。郷土を知り、郷土を愛する心の育成に努めました。

10月には人権教育参観日。児童・保護者全員で前田御夫妻の指導のもとダンスをしました。手を繋ぎ相手も思う気持ちの大切さ。そして、砂原御夫妻の車いすダンスをみんなで参観し、代表児童が体験しました。障がいや前にしたとき、どう生きるのか。砂原御夫妻の前向きな生き方に多くのことを学びました。

11月には、毎年開催の「八東フェスティバル」。今年も短期間の練習でしたが、各学年が今年の学びの成果をそれぞれ工夫して発表をしてくれました。そして、ラストは会場全体が、「パブリカ」の歌とダンスで盛り上がりました。

また、延び延びになっていた校内マラソン大会も、すばらしい秋晴れのもとで実施できました。12個もの大会新記録が出たことは、大変、うれしいことでした。来年に向けて、12月も朝マラソンは続いています。日々の積み重ねの大切さを思います。「継続は力なり」です。

こうして80日間の令和元年度の2学期が無事に終わりました。子供たち全員が、大きなけがや事故もなく終えることができたことを感謝します。明日12月26日から令和2年1月8日までの冬休みがスタートしますが、健康に気をつけ全校児童141名が無事に新年を迎え、1月9日の第3学期始業式に、新年の目標を持ち、元気に登校して来てくれることを願います。

今年も1年が終わり、また、新しい1年が始まる。繰り返される何げない日常の「有り難さ」をしみじみ思います。

みなさん、「一隅を照らす」という言葉をご存知ですか。天台宗を開かれた**伝教大師 最澄 僧侶**の言葉です。実は、この言葉は以前から知っていましたが、アフガニスタンの復興に尽力された**故・中村哲 医師**の大切な言葉として、「照一隅」を話されていたことを、今回の訃報に関する報道で知り、より一層この言葉の意味を考え、クリスチャンである中村医師の生き方に感動しました。私も十数年前から中村先生の活動を知っていました。中でも、総延長25kmの用水路を完成された活動には、唯々、敬服するばかりでした。工事に着手された頃の様子が報道されて、その遠大な計画に驚き、完成の際には、更に感動した覚えがありました。

アフガニスタンは、子供たちの勉強に実は関連があります。東京書籍の4年の国語の教科書に小林豊氏の「世界一美しいぼくの村」という教材があります。保護者のみなさんも目にされたことあるかと思います。アフガニスタンの紛争前の豊かな自然と溢れる実り、穏やかな人々の生活、この話から昔のアフガニスタンの素晴らしさを感じていました。主人公ヤモの暮らすバグマンの村人の日常。しかし、紛争により平和を奪われた人々の暮らしの対比が、悲しい教材です。この教材の最後のページは、心に深く突き刺さるページです。それまでの平和な日常の記述から、一転して、最後のページをめくると、何もない荒れ地となったふるさとバグマンと、その前に佇むヤモ家族の姿で終わります。文も、わずか2行です。

「その年の冬、村は戦争ではかいされ、今はもうありません。」

この地域の復興に尽力されてきた故・中村哲先生を思い、日常の「有り難さ」、何でもない日々、当たり前の日々の「有り難さ」、そして、平和な日々「有り難さ」を、しみじみ思います。みなさん、どうぞ良い新年をお迎え下さい。令和2年・2020年が平和であることを願います。ありがとうございました。。

「一隅を照らす」(「照一隅」)とは (「一隅」=今自分がいる場所や置かれている立場)  
 「おのおのの仕事や生活を通じて、世のため人のためになるように努力実行することで、お互いが助け導き合い、あたたかく思いやりの心が大切にされ、世の中に広げられていくこととなる。自分の利益を顧みずに、他のために全力を尽くし、周りの人々の幸せのために生きることが、自らの幸せであり、お互いが、お互いの幸せのために力を出し合うことで、世の中みんなの幸せが得られる」

○「とっとり読書絵てがみ・感想文コンクール」・連動企画 「お話訪問隊」のみなさん来校  
 ～ 本年最後の楽しい絵本の読み聞かせの時間でした。 ～

先週の16日月曜日に、お話訪問隊のみなさんに来校頂きました。今回は、1・2年生全員が参加して、5名の訪問隊のみなさんからたくさんの絵本を読み聞かせて頂きました。

コンクールに関係する本の紹介の後で、クイズがあり、いよいよ子供たちが待ちに待っていた絵本の読み聞かせでした。絵本を通して物語の世界に瞬く間に誘われて、絵本の世界にすっかり入り込んでいる子供たちの姿がありました。ページをめくる毎に楽しい挿絵や楽しい仕掛けがあり、次から次へと繰り広げられる楽しい絵本の世界でした。今回は、「どこいったん」「はなすもんか」「とべばった」など合計8作品を読み聞かせ頂きました。右上の写真にあるような、大型絵本も読んで頂きました。個人的に大好きな「ティラノサウルスシリーズ」の宮西達也さんの「はなすもんか」というお話です。ここでは詳しく紹介しません。是非、お子さんと一緒に読んで頂ければうれしいです。冬休み親子読書、親子読み聞かせを、是非、お願いします。子供たち楽しみにしています。



さて、お話訪問隊のみなさんと読み聞かせの後で話をしましたが、まず、読み聞かせの時の子供たちの姿を褒めて頂きました。子供たちみんなが集中して話を聞いている姿に感心して下さいました。そして、みなさんから絵本の素晴らしさを熱く語って頂きました。しかし、一方でみなさんから、子供たちの活字離れ、本離れの状況も語られました。また、「絵本」からいかにして「文字の本」へと橋渡しをしていくのか。そんな話題もありました。

ところで、この話し合いの時に、「読解力」のことが話題になりました。今月3日に **PISA** の学力調査結果がニュースや新聞で報じられました。

今回の調査結果は、「日本は、数学的リテラシーと科学的リテラシーは世界トップレベルを維持した。しかし、読解力は平均得点、順位ともに下げた。」というものでした。更に紹介すれば、前回2015年の調査と比較しても、「数学的リテラシー」は5位から6位、「科学的リテラシー」は2位から5位、残念ながら順位は下がっています。そして、「読解力」は、前回の8位から15位へと大幅に後退しています。かなり厳しい結果となっています。

もちろん、単純に読解力と読書とは関係つけることはできませんが、本校の場合でも残念ながら、読書の状況が、やや低下している実態もあります。読書から離れ、本から離れ、活字から離れてしまっている児童もあります。PISA 調査の内容が、読書活動と関連している訳ではありませんが、文字に対する意識・文字や文章への抵抗感の有無も、多分に影響していると思います。目的に応じて情報を探して読む、複数の情報を比較して文章を評価する、読んだことをもとに自分の考えを根拠を示して説明する力などは、以前から変わらぬ課題です。「読解力」の課題は、厳然としてあります。

いずれにせよ「読む」という活動が、「学びの基本」であること、学びもそこから始まることに変わりはありません。「読解力」「読む力」「読み解く力」の育成が、教育の喫緊の課題と言えます。

この冬休み中、テレビやゲームから離れ、読書や新聞などで「読む」活動をお願いします。

○八東小学校 「あいさつ標語」

児童会運営委員会の活動の一環として「あいさつ標語」が各学年から次のように決定しました。

- 1年 あいさつは げんきな声と良い笑顔 西口竜富
- 2年 すぐ言おう あいさつするのは 気持ちいい 中田志和
- 3年 言い合おう まほうの言葉 「こんにちは」 片山悠華子
- 4年 あいさつを かかさず毎日 元気よく 中嶋悠介
- 5年 あいさつで 地域の人と かかわろう 盛田愛菜
- 6年 あいさつでつながろう あいさつを広げよう 大村宗磨

○令和2年の第3学期も、朝からあいさつの響く学校にみんなですていきましょう。

○第31回MOA美術館

全国児童作品展  
 絵画の部・**全国展・銅賞**  
 1年 佐藤 由奈

○第55回「わかば」作文・図画コンクール

・**優秀賞** 1年 大山莉乃  
 「お花畑でいっしょだよ」

・**佳作**

2年 小椋玲輝  
 「トマトにあつまるカブトムシ  
 やクワガタ」

1年 保木本 皇月  
 「草をいっぱい食べたよ」

※鳥取県教育長表彰 6年 藤田大獅 高原匠都 (第41回全国スポーツ少年団ホッケー交流会第3位より)